

ナイルの流れに

カイロ日本人学校 Noboru Ozawa



H. 2 8 . 6 . 1 8

No. 4 4

ラマダン・カリーム

今年のラマダンは、6月6日から始まり7月6日に終わる予定です。ラマダンとは、イスラム暦の9月のことで、断食をする月になります。「ラマダン・カリーム」とは、直訳すると「ラマダンで気前がいい」という意味です。ラマダンの時期のあいさつで交わされます。これに対する応答は、「アッラー・アクラム」（アッラーはもっと気前がいい）になります。「気前がいい」とは、ラマダン期間中に食べ物などを人に与えるからで、このようにいいことをすると、死後の世界で天国に行けると考えられています。イスラム教では、死後の世界があると考えられていて、閻魔様のような人の裁きを受けて天国に行くか地獄に行くかが決まります。だから、私も道端でお菓子や飲み物をもらうことがあります。

断食とは、基本的には太陽が出ている間は飲食ができません。6月下旬のカイロの日の出は4時55分頃で、日の入りは19時頃です。つまり、約14時間飲食ができません。しかし、日の出は5時少し前ですが、日の出前の薄明という明るくなる時間から飲食ができなくなります。それが3時頃です。つまり、24時間のうち約16時間飲食ができなくなります。

今年のカイロの6月は暑く、連日最高気温が36度前後です。この時期のラマダンはとても大変です。イスラム暦の1年の日数は、太陽暦と比較して11日短いので、毎年11日ずつラマダンの時期は早まります。この時期のラマダンは、1年の中でも日中の時間が最も長いので、とても厳しい時期と言えます。

ラマダン中は、勤務時間を短縮し、日の入りと同時に食事をとります。この食事のことをイフタールと言います。イフタールとは朝食の意味ですが、ラマダン期間中は、その日初めて食べる食事なので、夜ですがイフタール（朝食）と言います。このイフタールは、家族や親戚、親しい人たちと食べます。私も、エジプト人の知り合いからイフタールに誘われて一緒に食べました。イフタールの後は、そのまま夜中まで起きていて楽しんでます。だから、夜中まで街は賑わっています。



マハシ：ご飯をキャベツで包んだもの

日の出前に軽食をとります。スホゥールと言います。時間にするとだいたい深夜2時前後です。これを食べ、お祈りをして寝ます。普段と比較して睡眠時間が短くなりますので、勤務時間も短くして体を休める必要があります。カイロ日本人学校は勤務時間は変わりませんので、エジプト人スタッフは大変です。

最後に、ファヌースを紹介。ラマダンの時期は、色とりどりの飾りやファヌースというランプで街はとてもきらびやかになります。ランプは、まだ電気がない時代に、日の入りとともにイフタールを食べますが、その時の明かりとして使われていました。現在は、もちろん電気がありますが、ランプを飾る習慣が残っています。



色とりどりのファヌース（お店）